

新聞を手にする子どもに ～新聞を活用した学習活動の工夫を通して～

日南市立吾田小学校

教諭 笠 千 晴

○ はじめに

本校は、2018年度よりNIE教育実践指定校として指定を受け、2019年度は2年目である。初年度である2018年度は、まずは新聞を児童にも教師にも身近なものにし、親しませることに重きを置いた。2年目の2019年度はそこから一歩踏み込み、児童の読解力向上のために、具体的な取り組みを実践することにした。

1 学校としての取組

(1) 新聞を置く環境

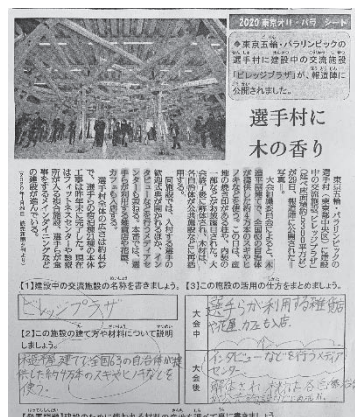
毎朝届く新聞を、職員室前の配布物ボックスに入れる。各学級の当番の児童が新聞を教室に持って行き、いつでも教室に新聞があり、児童がいつでも手に取ることができる環境にした。

(2) 朝のNIEタイムの実施

朝の時間は、週に2～3日基礎基本定着の為に「吾田タイム」を実施してきた。NIEに確実に取り組むためにも、その中に学年毎で「NIEタイム」を計画し取り組んできた。

(3) ワークシートの共有化（1年目）→共通実践（2年目）

昨年度は読売新聞の読売ワークシートを毎週ダウンロードし、全職員が使いたい時にすぐに使えるように印刷機のすぐそばに置いていた。しかし、どうしても取組に差が見られた。そこで本年度は、担当が全学年分、発達に応じたワークシートを選び、毎週どの学級も取り組めるようにした。朝の時間や国語の習熟の時間に取組んだり、宿題で取組んだりしてきた。兄弟姉妹で同じワークシートに取り組む事もあり、家庭でその記事について話題になった家庭もあった。また、宿題にする事で保護者も学校でNIEに取り組んでいる事を知ることでもできたようだ。



【読売新聞ワークシート】

(4) 職員へのNIE研修

夏季休業中8月7日に全職員を対象としたNIE研修を行った。昨年度も同時期に行ったが、今年転勤してきた職員も多い為、実施した。昨年に引き続き宮崎日日新聞社編集委員室の呉野秀幸編集委員を講師に招き、研修を行った。NIEの必要性、投稿した作品の選ばれ方、新聞社の仕事などを分かりやすく熱く教えていただき、充実した90分となった。

2 実践事例

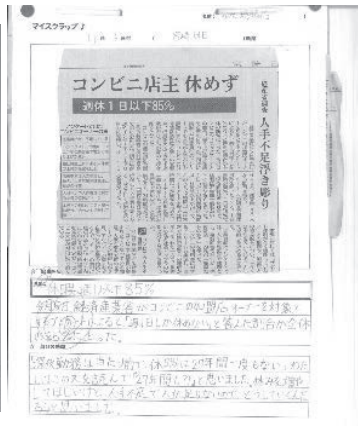
(1) 6年生 【マイスクラップ】

週に1枚を目安に1人1枚、新聞記事のスクラップに取り組んだ。取り組み方は以下の通りである。

- ① 教室に届く新聞の中から、1週間で1枚気になった記事を切り取る。
- ② スクラップシートに記事を貼る。
- ③ 見出しの記入。書き写しても、自分で違う見出しを考えても良い。
- ④ 記事の要約をする。(5W1Hを意識して)
- ⑤ 記事の感想を書き、提出。
- ⑥ 廊下に掲示。



【廊下に掲示されたスクラップファイル】



【児童のマイスクラップシート】



(2) 3年生 【新聞読み声】

毎日の読み声の宿題を、毎日違う新聞記事にし、読んだ感想を(1、2文程度~長文等様々)書くようにした。(教科書の内容によっては、教科書の音読をする週もある)新聞に読み仮名がついていることで取り組みやすい。

【取組を始めた頃】

初めて読む文章で、時間がかかりかかっていた。課題が出された時に拒否反応を示す子もいた。児童の感想は、「おもしろかった」「〇〇の事が分かった」等、実際に読んでいてどうか分からない感想が多かった。あらすじを書いてしまう子もいた。



【取組を1年間続けると…】

「今日は何の記事だろう」と、新聞読み声を楽しみにする声が多く聴かれるようになった。

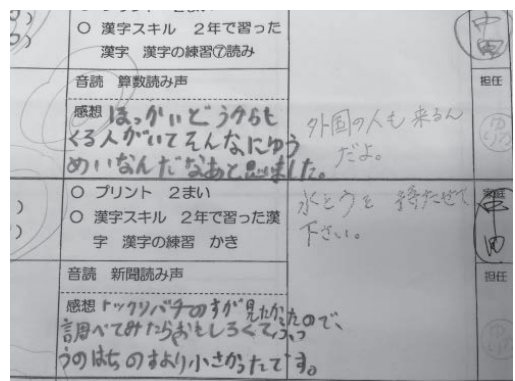
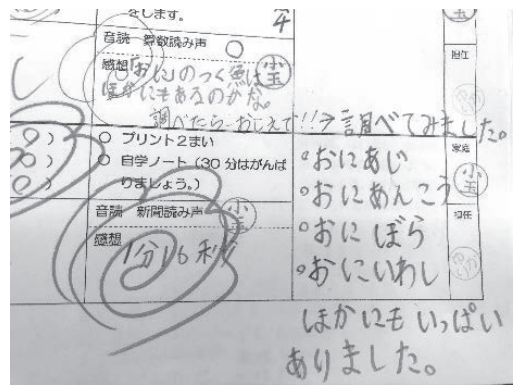
児童の感想は、内容についての疑問や共感、関心の高まりを感じさせるものが多くなった。疑問に思った事を図鑑で調べ、報告する児童や、疑問に思った事を探究するために、夏休みの自由研究にした児童もいる。

保護者からは、「毎日の読み声のネタがおもしろくて、私もよく一緒に驚いたりします」とのコメントや、「親子でその記事について話すようになりました」「読み声に時間がかかっていた最初の頃からすると、成長を感じる。」等の感想を聴くことができた。

また、気になる記事を家で切り抜き、「読み声にして欲しい」と学校に持ってくる児童も出てきた。

(3) 3年生 【係活動での新聞づくり】

新聞係は、新聞から自分たちが気に入った記事を切り抜いたものを貼り、オリジナル新聞を作ったり、「何と言っているでしょう!？」コーナーで学級みんなに意見を募ったりするなど楽しく新聞を活用している。



(4) 6年生 【国語科における新聞の活用】

単元	「熟語の構成を考えよう」
単元目標	3字以上の熟語の構成を理解することができる。
活用の仕方	3字以上の熟語の構成を理解した上で、新聞の中から3字以上の熟語を探し、書き出す。班に1部ずつ新聞を配付し、その中から協力して探すとゲーム感覚で意欲的に取り組み、楽しみながら多くの熟語を見つけることができた。

単元	「町の未来をえがこう 町の幸福論～コミュニティデザインを考える」
単元目標	複数の資料から、読み取った情報を、目的に応じて活用することができる。意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。

活用の仕方	<ol style="list-style-type: none"> ① 3、4カ月前から、新聞記事の中で日南市に関する記事を切り抜き、収集する。 ② 集めた新聞記事を、各班のテーマに分ける。(観光・教育・防災等) ③ 市の広報課に頂いた1年間分の広報誌を、テーマ別に切り抜き、分ける。 ④ 班で、集まった記事を並べ、情報の取舍選択をする。 ⑤ 自分たちに必要な記事から、自分たちの町の未来について考える。 ⑥ プレゼンテーションでの発表においても、必要であれば記事を切り抜く。
-------	---



※ 南那珂地区国語部会の研究授業において、多くの先生方に新聞を活用した授業を参観していただいた。

単元	「将来の夢や生き方を考えよう」
単元目標	文章を読んで、そこに書かれた人物の生き方から、自分の将来の夢や生き方を考えることができる。
活用の仕方	活用記事：宮崎日日新聞 特集記事【働く、生きる、自分流】 教材文では、3人のプロフェッショナルの仕事への思いや生き方について考える。より多くの人の仕事や考え方、生き方に触れさせるために、この特集記事を活用した。自分たちに近い県内各地に住む5人の方の仕事に対する思いや生き方を読み取る中で、考えを広げることができた。
児童の感想	<p>○ 岩切さんは、自分の病をばねにし、子どもたちの力になりたいという思いで、大会を主催しているところがプロフェッショナルだなと思いました。</p> <p>○ 矢野さんは、手作りや少量生産など、細かい部分にこだわり、誇りに思うところがプロフェッショナルだなと思いました。</p> <p>○ 私が思う、岩切さんのプロフェッショナルだなと思うところは、「自分と同じような子ども達の力になりたい」というところです。誰かの役に立とうと思うところがすごい方だなと感じました。</p> <p>○ 障害のある子どもたちの励みになるため努力する、決めた道はずれない、というところがすごいと感じました。私も自分の決めた道を進んでいきたいです。</p> <p>○ 大量生産が重視される中、人や共感を大切に、ただ喜ばれることをしようとする気持ちがプロフェッショナルだなと思いました。</p> <p>○ 宮崎県にもプロフェッショナルがたくさんいる事を知れた。</p>



3 成果と課題

【成果】

- マイスクラブや新聞読み声など、常時継続して取り組むことにより、児童にとって新聞がより身近なものになり、自分から新聞を手にする児童が増えた。また、音読の仕方や、読み取り方、要約する内容、感想に書く内容からは児童の成長を感じることができた。
- 新聞ワークシートを共有するだけでなく、全学級取り組める工夫をしたことで、先生方の負担を増やすことなく、取り組むことができた。
- 授業での実践を通して、普段の授業の中でも新聞を取り入れられることを実感した。しかし、その為には、教師が新聞を読む中で、活用できる記事はないかアンテナを張ることが大切だと感じた。

【課題】

- 学年によって取組の差が生まれてしまった。実践を続けた先生方は児童の変容から「新聞のおかげで…」「続けたい!」との声が聞かれたが、それは実践してからでしかなかなか気付けないとも思う。
- 読解力向上にどれだけ繋がったかを数値的に明らかにすることが難しかった。

※ 講師の依頼や、授業で使う記事等について宮崎日日新聞読者室に問い合わせると、すぐに対応していただきました。ありがとうございました。